久慈農業改良普及センターだより

あぐりあす

第291号



令和８年10月30日発行
久慈農業改良普及センター
経営指導課：0194-66-9684
産地育成課：0194-66-9683
地域指導課：0194-53-4989
FAX　　：0194-53-5009

～ 掲 載 内 容 ～　　ページ

1 久慈地域の情報

○普及現地情報　・・・1

・「まめぶ」を作ろう～高校生への郷土料理伝承会（第１回）開催～
・電気柵設置研修会を開催しました！
・地元の小学生たちがほうれんそうの収穫を体験しました！
・「うきうきだんご・みみっこもち」を作ろう～高校生への郷土料理伝承会（第２回）開催～
・集客アップのヒントを学ぼう！～集客力向上視察研修会を開催しました～
・地元の中学生がほうれんそうの収穫を体験しました！

2 お知らせ

○「あぐりあす」鳥獣被害防止特集コラム（第3回）　・・・7

・クマによる人身被害を防ぐために

○野菜品目新規栽培者向け説明会を開催します！　・・・10

・久慈地域で野菜栽培をすることに興味のある方、野菜の品目を増やしたい方、ぜひご参加ください。

○「白銀のひかり」作付経営体の募集について　・・・12

・県オリジナル水稲品種「白銀のひかり」の販売を希望する方は、作付経営体登録の申請を行ってください。

○秋冬の施設葉菜類の農薬適正使用について　・・・16

・ラベル確認と器具・収穫かごの洗浄を徹底しましょう。

○農薬管理使用アドバイザー養成研修会について　・・・17

・あなたも農薬管理使用アドバイザーになりませんか？

○久慈地域産直スタンプラリー開催中！　・・・18

・開催期間は残りわずか！お早めにご参加ください。

○万が一に備えて、労災保険への加入を　・・　別添

・労災保険加入の準備はお済みですか？

○農業用廃プラスチック回収のお知らせ　・・　別添

・回収期間や搬入方法をご確認ください。

○野生きのこの取扱い・検査マップ　・・　別添

・野生きのこの販売前チェックを忘れずに。

普及現地情報
令和８年９月１日
久慈農業改良普及センター
記述者　中野碧衣

「まめぶ」を作ろう
～高校生への郷土料理伝承会（第１回）開催～

久慈地方農業農村活性化推進協議会では、８月28日に、久慈翔北高校食物系列の３年生13名を対象として、食の匠による郷土料理伝承会を開催しました。

第１回は、谷地ユワノさん（久慈市山形町）に、食の匠認定料理の「まめぶ」を教わりました。

「まめぶ」は、くるみを包んだ小麦だんごで、「まめまめしく健康で達者に、無事に暮らせるように」との願いが込められています。

将来調理技術を生かした仕事に就きたいという生徒もおり、谷地さんの的確な指示のもと、手際よく作業を進めていました。くるみと黒砂糖を生地に包む際、中身が出ないように丸める作業に苦戦する生徒も見られましたが、谷地さんからコツを教わりながら熱心に取り組んでいました。

生徒たちは、「作り方は調べていたが、実際に作るのは初めてだったのでいい経験になった」、「家でも作って家族に食べさせたい」などと感想を話していました。おかわりをする生徒も多く、地域の食文化を体験する貴重な機会となりました。

伝承会は全３回で、次回は９月11日に「うきうきだんご」の調理を行う予定です。



谷地さんに教わりながら作る生徒たち



完成した「まめぶ」

普及現地情報
令和８年９月15日
久慈農業改良普及センター
記述者　　田淵　麻紘

電気柵設置研修会を開催しました！

久慈地域鳥獣被害現地対策チームでは、電気柵の設置・維持管理の知識や技術習得を目的とした「電気柵設置研修会」を洋野町宿戸地区で９月１日（火）に開催しました。当日は、農業者11名を含む20名が参加しました。講師は、農業研究センターの中森専門幹研究員と農業普及技術課の小野寺上席農業普及員で、くい打ちやワイヤー張りといった電気柵の施工手順や、十分な被害防止効果を発揮させるための維持・管理における注意点について、参加者とともに実習しながら説明していただきました。

参加者は熱心に実習に取り組んでおり、「これからシカやイノシシに気をつけたい」といった感想をいただき、鳥獣被害対策についての意識醸成にも繋がりました。今後、久慈農業改良普及センターでは、鳥獣被害防止対策を継続して進めていきます。



実習の様子



完成した電気柵

普　及　現　地　情　報
令　和　８　年　９　月　１６　日
久慈農業改良普及センター
記　述　者　　東　海　林　　豊

《久慈》地元の小学生たちがほうれんそうの収穫を体験しました！

久慈市立平山小学校では、３・４年生の総合的な学習の時間に、「地域の宝を伝えよう」をテーマとして、９月14日に児童14名が地域のほうれんそうほ場の見学と収穫を体験しました。

始めに、普及センター職員から、久慈地域は「ヤマセ」が吹き、ほうれんそう栽培に適した気候で沢山作られるようになったことや育て方について説明しました。

次に、農家の方からほうれんそう栽培を始めたきっかけや、栽培での苦労などの話しを聞いた後、実際に収穫を体験しました。児童たちは初めてビニールハウスの中で育っているほうれんそうを見たそうですが、自分の手でしっかりと根元から引き抜き、上手に収穫できていました。

担当教諭からは「子供たちが久慈市のほうれんそう紹介パンフレットを作成するので、この体験を役立てたい。」など、今後の学習活動につながるコメントが述べられました。

普及センターでは、農業への興味・関心の向上や次世代の担い手育成に向けた支援を継続します。



ほうれんそう栽培について学習する様子

普及現地情報
令和８年９月17日
久慈農業改良普及センター
記述者　中野碧衣

「うきうきだんご・みみっこもち」を作ろう
～高校生への郷土料理伝承会（第２回）開催～

久慈地方農業農村活性化推進協議会では、９月11日に、久慈翔北高校食物系列の３年生13名を対象として、食の匠による郷土料理伝承会を開催しました。

第２回は、小野寺信子さん（野田村）に、食の匠認定料理の「うきうきだんご」と「みみっこもち」を教わりました。

「うきうきだんご」は、あずき汁にだんごが入った料理で、煮るとだんごが浮いてくることから名づけられました。「みみっこもち」は、くるみや味噌、砂糖を合わせた餡を小麦の生地で包んだおやつで、その形が耳に似ていることからこのように呼ばれています。

小野寺さんの明るい人柄もあり、生徒たちは質問をしながら楽しく調理に取り組み、それぞれ思い思いの形にだんごを成型していました。「うきうきだんご」の実習では、もち粉100％のだんごと、もち粉とうるち粉を混ぜただんご２種類を作りました。うるち粉が入ることで歯ごたえのある食感になるなど、それぞれの違いを楽しんでいました。

生徒たちは、「初めて聞く料理なので、知ることができて良かった」、「家族と作って食べたい」などと感想を話し、郷土料理への理解を深める機会となりました。次回は11月に「いげばっと」の調理を行う予定です。



小野寺さんに教わりながら作る生徒たち



完成した「うきうきだんご」（右）と「みみっこもち」（左）

普及現地情報
令和８年10月７日
久慈農業改良普及センター
記述者　宮澤　薫子

集客アップのヒントを学ぼう！
～集客力向上視察研修会を開催しました～

久慈地域産直連絡協議会では、９月10日に産直の集客力向上を目的とした先進地視察研修を開催しました。会員、関係者合わせて21名が参加し、宮城県の道の駅大谷海岸（気仙沼市）、道の駅三滝堂（登米市）の２か所を視察しました。

視察先では、季節ごとのイベントやオリジナル商品の開発、旬を意識した売場づくりなど、集客力向上のための取組を説明いただきました。参加者は、イベントの詳細や品揃えを充実させる工夫、出荷者との関わり方などについて活発に質問していました。店内の見学では、品揃えや商品の陳列、レシピやPOPのデザインなど、自身の産直に活かせる点を探しながら熱心に見学していました。

参加者からは、「地元産にこだわった商品展開や道の駅オリジナル商品の魅力、大切さを改めて感じた」「何度も来てもらう工夫として、旬の物をメインに陳列する店づくりや、手書きのPOPが参考になった」との感想がありました。

今回の視察研修で得た学びや気づきを活かし、魅力ある商品展開や売場づくりを通じて、さらなる集客力の向上につなげていただきたいと思います。



道の駅大谷海岸での研修の様子

普　及　現　地　情　報
令和８年　10月　19日
久慈農業改良普及センター
記述者　　東海林　　豊

《久慈》地元の中学生がほうれんそうの収穫を体験しました！

久慈地方農村青年クラブ連絡協議会では、地域農産物生産の取組を理解してもらい、地域農業振興や担い手確保につなげるため、小学生・中学生が総合的な学習の時間に行う農作業体験を受け入れています。

10月9日に普代村立普代中学校1年生3名が会長である中村駿人さんのほ場を訪れました。中学生たちは、はじめに果菜類（なす、ピーマン、トマト）を収穫し、その後、ほうれんそうの収穫、調製、袋詰めを行いました。休憩をはさんで、さつまいもの収穫を行いました。

最後に質問の時間を設け、生徒たちは予め考えてきたことをそれぞれ質問していました。機能性表示食品となった寒締めほうれんそうの成分「ルテイン」や、中村さんのほうれんそうが食べられる村内や全国の飲食店、ほうれんそうを栽培する魅力などについて生徒たちは理解できたようです。今後も普及センターでは、久慈地方農村青年クラブ連絡協議会の活動を支援していきます。



ほうれんそう調製方法を学習する様子

あぐりあす　鳥獣被害防止特集コラム（第３回）

クマに出会わないための備えと
出会ってしまったときの行動を確認しましょう

（岩手県農林水産部農業普及技術課　農業革新支援担当　資料より抜粋）

前回は、クマなどによる農作物被害を防ぐため、電気柵を正しく設置し、継続して管理することの大切さを紹介しました。今回は、人身被害を防ぐため、現地に入る前の備えや装備、クマに出会ってしまったときの行動について紹介します。

■まずは「クマに出会わない」ことが大切です

山林や農地などに入る前には、クマ出没状況アプリ「Bears」や市町村が発信する情報を確認しましょう。最近クマが目撃されている場所には、できるだけ近づかず、危険が予想される場合は無理に現地へ行かないことが基本です。

また、クマが出没する可能性のある場所では、クマ鈴など音の鳴るものを携帯し、人の存在を知らせましょう。食べ残しや生ごみなど、クマの餌となるものを放置しないことも重要です。

■装備を整えてから現地に入りましょう

クマが出没する可能性のある場所では、出没情報を確認した上で、クマ鈴、クマ撃退スプレー、頭や顔を守る防護装備などを準備しましょう。

クマ鈴は、人が近づいていることをクマに知らせ、突然の遭遇を避けるために使用します。できるだけ遠くまで音が届くものを選び、体や衣服に触れて音が鳴らなくなっていないか確認しましょう。

クマ撃退スプレーは、クマが接近し、攻撃を受ける危険がある場合に使用します。いざというときにすぐ取り出せるよう、バッグの奥ではなく、腰や胸元など手の届きやすい場所に携帯しましょう。また、あらかじめ使用方法を確認しておきましょう。



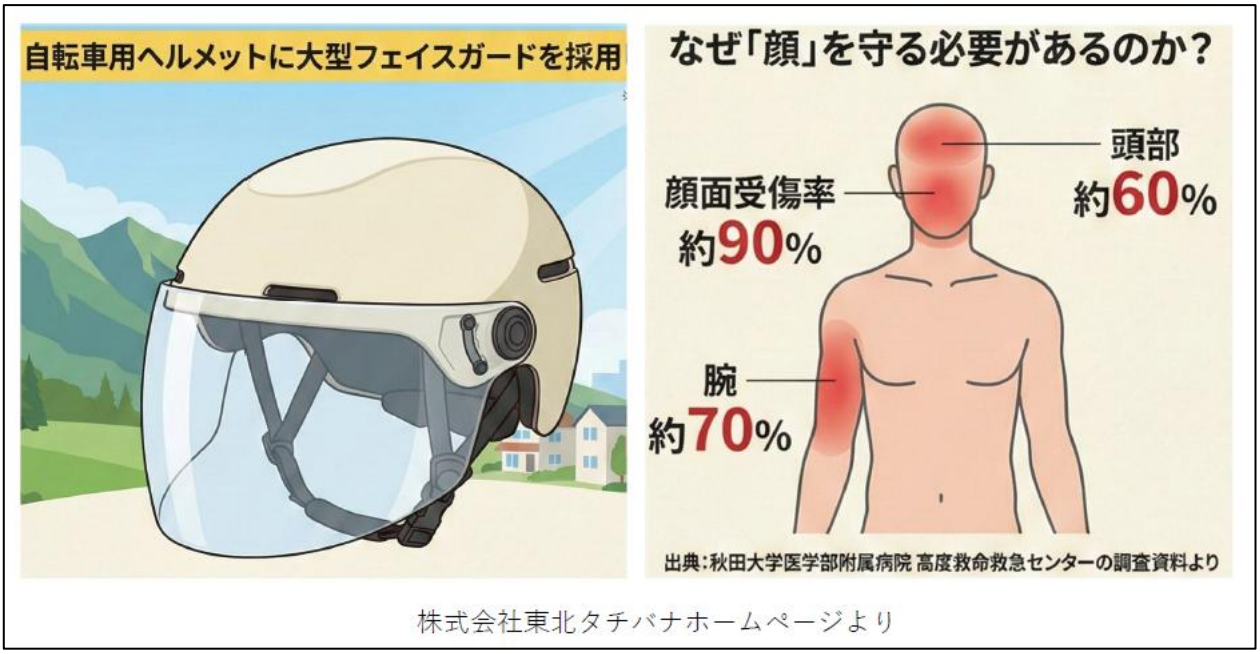
ららいわてホームページより





バイオ科学ホームページより

クマは顔や頭を狙うことがあるため、ヘルメットやフェイスガードなど、頭部や顔面を保護する装備も、被害の軽減に役立ちます。



ただし、これらの装備があれば必ず安全というわけではありません。出没情報を確認し、危険が予想される場合は、無理に現地へ入らないことが基本です。

■クマに出会っても、走って逃げない

クマに出会うと、驚いて走り出したくなりますが、クマに背を向けて走って逃げてはいけません。クマから目を離さず、刺激しないよう、静かにゆっくりと後ずさりして距離を取りましょう。大声を出したり、石や物を投げたりするなど、クマを刺激する行動は避けましょう。

近くに電柱や立木、車、塀などがある場合は、クマとの間に遮蔽物を挟み、攻撃を受けにくい位置へ移動しましょう。



■襲われそうになったら

クマが近づき、攻撃を受ける危険がある場合は、風向きを確認してクマ撃退スプレーを使用しましょう。

クマが攻撃してきた場合は、両腕で顔や頭を覆い、地面に伏せて防御しましょう。クマは顔や頭を狙うことがあるため、可能であれば、くぼみやＵ字溝などに顔を隠し、顔や頭を守りましょう。



■現地に入る前に確認したい５つ

確認事項	ポイント
① 出没情報の事前確認	「Bears」や市町村が発信する情報を確認する。
② 単独行動の回避	可能な限り複数人で行動する。
③ 音の鳴る装備の携行	クマ鈴などを携行し、確実に音が鳴る状態にする。
④ クマ撃退スプレーの携行	すぐに使用できる位置に携行し、使用方法を確認する。
⑤ 危険時の立入り回避	出没情報や痕跡が確認された場合は、無理に立ち入らない。

日頃から地域のクマ出没情報を確認し、現地に入る際の装備と、クマに出会ったときの行動を確認しておきましょう。事前の備えと正しい行動が、自分や周囲の人を守ることにつながります。

令和８年度
野菜品目新規栽培者向け説明会

～久慈地域で野菜の生産を始めてみませんか～

場所・日時

R8.11.26(木)

10:00～　普代村役場　2F特別会議室
（普代村第9地割銅屋13－2）

14:00～　JA新いわて野田支所　2F会議室
（野田村野田20-10）

R8.11.27(金)

10:00～　久慈地区合同庁舎　6F第4会議室
（久慈市八日町1-1）

14:00～　洋野町役場大野庁舎　2F大会議室
（洋野町大野8-47-2）

4会場のうち、可能なかぎりお住まいの市町村会場にご参加ください

内容

・久慈地域の農業について
・野菜品目の紹介(ほうれんそう、ピーマン、きゅうり、ブロッコリー　他)

対象者

・久慈地域で野菜栽培をすることに興味のある方
・野菜の品目を増やしたい方

申込み

・申込み方法：裏面報告様式により、メールまたはFAXでご報告願います。
・参加の際は事前申込み願います。
※　詳細は裏面をご覧ください

［主催］久慈地方農業農村活性化推進協議会農産園芸部会

令和８年　　月　　日

久慈農業改良普及センター　佐々木　行

FAX：0194-53-5009

E-mail：ce0026@pref.iwate.jp

令和８年度野菜品目新規栽培者向け説明会　　出席者報告

１　参加希望会場

出席希望会場に○	会場	月日	時間	場所（住所）	申込締切
	普代村	11/26（木）	10:00～11:30	普代村役場　２Ｆ特別会議室（普代村第９地割字銅屋１３－２）	11/25（水）
	野田村		14:00～15:30	JA 新いわて野田支所　２Ｆ会議室（野田村野田２０－１０）	
	久慈市	11/27（金）	10:00～11:30	久慈地区合同庁舎　６Ｆ第４会議室（久慈市八日町１－１）	11/26（木）
	洋野町		14:00～15:30	洋野町役場大野庁舎　２Ｆ大会議室（洋野町大野８－４７－２）	

２　出席者

氏　名	電話番号	お住まいの市町村	備　考

～令和９年産「白銀のひかり」作付経営体を募集します！～

県オリジナル品種「白銀のひかり」は、高品質・良食味を確保するとともに、生産から販売まで適正に管理し、ブランド米としての評価を確かなものとするため、作付経営体を登録することとしています。

作付けを希望される方は、13～15 ページの『令和９年産「白銀のひかり」作付経営体登録に係る募集要項』や県ホームページ『「白銀のひかり」作付経営体の募集』をご確認の上、必要書類を下記の提出先に提出するようお願いいたします。

◆応募方法

ＪＡに出荷する場合は、県内の各ＪＡが作付経営体を取りまとめ、一括して申請しますので、各ＪＡの指示に従って必要書類を作成し、各ＪＡに提出してください。

※ＪＡ出荷以外の独自販売を予定する場合は、独自販売分について各市町村農政主務担当課に個別に申請してください。

◆受付期間

令和８年 12 月 11 日（金）　17 時まで

県ホームページはこちら。
提出書類もこちらからダウンロードできます。

https://www.pref.iwate.jp/sangyoukoyou/nougyou/seisan/1078547.html

◆久慈地域の方の問い合わせ先

県北広域振興局農政部

TEL：0194-66-9675　FAX：0194-53-3560　メール：BK0003@pref.iwate.jp

令和９年産「白銀のひかり」作付経営体登録に係る募集要項

１　「白銀のひかり」作付経営体登録の趣旨

県オリジナル品種「白銀のひかり」は、**高品質・良食味**を**確保**するとともに、生産から販売まで適正に管理し、ブランド米としての評価を確かなものとするため、**作付経営体**を「白銀のひかり」作付経営体登録要綱により**登録**することとしています。

２　応募可能な経営体

登録の対象となる経営体は、「白銀のひかり」栽培適地で定める地域に作付けする農業者、法人及び生産者組織です。

３　登録期間

作付経営体として登録された日から、令和９年産「白銀のひかり」の販売が終了する日までとします。

４　登録に係る種子配分量

作付経営体として登録された作付面積について、10a 当たり種子量 3.5～４㎏を上限とし配分します（種子は有償）。

※全体の作付希望面積に対する種子量が不足した際には、作付面積を調整する場合があります。

５　作付経営体の要件

(1) 基本的要件

ア　栽培適地内の水田において栽培すること。

イ　**「白銀のひかり」の販売を行う者**であること。

(2) 技術的要件

ア　農産物検査で、**一等米比率の過去２年間の平均**が市町村平均以上であること。

イ　栽培に当たっては、**「白銀のひかり」栽培マニュアル**に基づく**栽培管理に取り組める**こと。

※ 現在の栽培マニュアルは、令和８年３月に改定した ver.2.0 です。

(3) 遵守事項

ア　種子の譲渡、自家採種を行わないこと。

イ　白銀のひかり栽培研究会等が主催する講習会、研修会、検討会に参加し、指導事項等を生産に反映できること。

ウ　玄米タンパク質含有率や食味等を総合的に判断し、品質・食味に優れるものを出荷・販売すること。

エ　収穫物は、自家消費を除き、全量出荷・販売に努めること。

オ　ブランドイメージの向上に効果的な販売計画を作成し、実践すること。

カ　「白銀のひかり」の計画的な生産、品質管理並びに販売など関係書類を整理保管すること。

６　応募方法等

(1) 応募方法

所定の提出書類に必要事項を記入の上、各市町村農政主務担当課に提出してください。

(2) 受付期間

令和８年12月11日（金）　17時00分まで

(3) 提出書類

申請の形態に応じて必要書類を各１部作成し、提出してください。

なお、**ＪＡに出荷する場合**は、県内の**各ＪＡが作付経営体を取りまとめ、一括して申請しますので**、各ＪＡの指示に従って必要書類を作成してください。

また、ＪＡへの出荷以外の**独自販売を予定する場合**は、**独自販売分について個別申請を行ってください**。

個別申請	ＪＡ一括申請	提　出　書　類
○		令和９年産「白銀のひかり」作付経営体登録申請書・要件確認書（様式第１－１号）
○	○	販売計画書（様式第１－２号） ※　ＪＡ一括申請時はＪＡが作成
	○	農業協同組合による登録申請者一覧（様式１－４号） ※　ＪＡが作成

※　上記のほか、法人及び生産者組織が申請する場合は、規約及び構成員名簿を添付してください。

7　登録及び確認結果の通知

「白銀のひかり」作付経営体登録要件確認要領により要件を確認し、**要件を満たしている場合**に、**作付経営体として登録**します。

また、要件を満たさないと認められたときは作付経営体として登録しないものとし、当該申請者に対して、その理由を付して通知します。

令和９年１月中を目途に、確認結果を申請者に文書により通知します。なお、個別申請分は申請者宛てに、ＪＡ一括申請分は当該ＪＡ宛てに通知します。

8　書類提出先

盛岡市、宮古市、大船渡市、花巻市、北上市、久慈市、遠野市、陸前高田市、釜石市、二戸市、八幡平市、滝沢市、雫石町、葛巻町、岩手町、紫波町、矢巾町、西和賀町、住田町、大槌町、山田町、岩泉町、田野畑村、普代村、軽米町、野田村、九戸村、洋野町、一戸町の農政担当課

9　問合せ先

岩手県農林水産部農産園芸課	TEL：019-629-5708　FAX：019-651-7172 メール：AF0008@pref.iwate.jp
盛岡広域振興局農政部	TEL：019-629-6599　FAX：019-629-6609 メール：BA0004@pref.iwate.jp
県南広域振興局農政部	TEL：0197-22-2841　FAX：0197-22-6194 メール：BD0004@pref.iwate.jp
県南広域振興局農政部 花巻農林振興センター	TEL：0198-22-4931　FAX：0198-22-6714 メール：BB0004@pref.iwate.jp
県南広域振興局農政部 遠野農林振興センター	TEL：0198-62-9932　FAX：0198-62-5745 メール：BH0003@pref.iwate.jp
県南広域振興局農政部 一関農林振興センター	TEL：0191-26-1413　FAX：0191-26-1875 メール：BE0003@pref.iwate.jp
沿岸広域振興局農林部	TEL：0193-25-2704　FAX：0193-27-2843 メール：BI0003@pref.iwate.jp
沿岸広域振興局農林部 大船渡農林振興センター	TEL：0192-27-9914　FAX：0192-27-8543 メール：BG0003@pref.iwate.jp
沿岸広域振興局農林部 宮古農林振興センター	TEL：0193-64-2214　FAX：0193-64-5631 メール：BJ0003@pref.iwate.jp
県北広域振興局農政部	TEL：0194-66-9675　FAX：0194-53-3560 メール：BK0003@pref.iwate.jp
県北広域振興局農政部 二戸農林振興センター	TEL：0195-23-9207　FAX：0195-23-1165 メール：BL0003@pref.iwate.jp

※　お問合せは、連絡先を明記の上、出来る限りＦＡＸまたはメールによりお願いします。

秋冬の施設葉菜類の農薬適正使用について

ラベル確認・器具の洗浄・収穫かごの使い分けを徹底しましょう



秋冬の施設葉菜類では、農薬の残留基準値超過が繰り返し発生しています。使用前のラベル確認に加え、散布器具や収穫かごを介した農薬の付着にも注意し、日頃の作業を見直しましょう。

【令和7年に県内で発生した残留基準値超過事例】

作物はいずれもしゅんぎくで、3件とも自主回収となりました。

産地・時期	検出成分	検出濃度 ppm	基準値 ppm	原因など
八幡平市 9月	フェニトロチオン	0.05	0.01	適用外使用 しゅんぎくに使えない殺虫剤を使用
岩手町 6月	ダイアジノン	0.05	0.02	適用外使用 しゅんぎくに使えない殺虫剤を使用
岩手町 6月	ダイアジノン	0.04	0.02	原因は特定できず 収穫かごからの付着や、前作で使った農薬の土壌残留の可能性

出典：農業普及技術課通知（令和８年 10 月 20 日 農普第 522 号）別表から抜粋



【作業前後のチェックシート】

1 散布する前

☐ ラベルで、作物名・病害虫・使用方法を確認した

同じ施設葉菜類でも使える農薬は異なります。ラベルの作物名を確かめましょう。

☐ 倍率・散布量・使用時期・使用回数を確認した

希釈倍率と散布量を守り、同じ成分を含む農薬の総使用回数も確認します。

☐ 周囲への飛散防止と、前作で使った農薬の注意事項を確認した

風が強い時の散布を避け、前作の農薬に後作物への制限がないかも確認します。

2 散布した後

☐ すぐにタンク・ホース・ノズルを洗った

ホースなどに薬液が残っていると、次の散布で別の作物にかかるおそれがあります。

☐ 使用日・農薬名・倍率・使用量を記録した

記入を後回しにすると、日付や回数を取り違えるおそれがあります。

3 収穫する前

☐ 収穫かご・用具を洗い、農薬の運搬用と分けた

農薬を運んだかごを収穫に使うと、付着した農薬が作物に移るおそれがあります。

☐ 使用記録で、収穫前日数と使用回数を確認した

収穫できる日を使用記録で確認し、家族や作業者にも伝えましょう。

判断に迷ったら、使用前に JA・普及センターへご相談ください。



あなたも 農薬管理使用アドバイザー になりませんか？



岩手県では、農薬の安全で適正な使用を普及・推進するため、農薬を取り巻く状況や法律上の扱い等の基本的な知識を、販売者や使用者に周知する機会を提供し、農薬の安全使用・適正管理に関して一定の知識を有する方を「岩手県農薬管理使用アドバイザー」として認定しています。

農薬に関する様々な専門分野について、この機会に正しい知識を学び、あなたも「農薬管理使用アドバイザー」として、地域の人や農薬を購入する人に対して正しく安全な使用方法を広めませんか。

★どのような人がなれますか？

⇨ 県内に勤務または居住する満 18 歳以上の方を対象とします。
これまで、農薬販売者、ＪＡ・ＮＯＳＡＩ・ゴルフ場・産直組合等の関係者、防除業者、農業者など、農薬の使用に関わる様々な分野の方を認定しています。

★どうすれば認定されますか？

⇨ 養成研修受講後の試験で 70 点以上(100 点満点)取得した方が認定されます。なお、薬剤師や防除指導員、農薬安全コンサルタント等の有資格者は試験免除となります。
認定期間は、研修受講年度の翌年度の４月１日から３年間となります。

【岩手県農薬管理使用アドバイザー養成研修会の開催概要】

例年、以下のような内容で開催しています。

１　開催日時・場所（例年）

（１）**開催日：１月中～下旬頃**

時　間：研修 9:30～15:40、認定試験 15:50～16:50

※研修受講後に認定試験が行われます。

（２）場　所：県央部１ヶ所、県南部１ヶ所

２　お申込みについて

受講には事前申し込みが必要です。**例年、９月下旬頃に県庁ホームページに受講案内を掲載します**ので、申込書等を入手してお申し込みください。(例年の申し込み締め切りは11月末頃です。)。なお、認定要領や過去の試験問題は県庁のホームページから入手できます。

※　岩手県ＨＰ ＞ 産業・雇用 ＞ 農業 ＞ 農業技術情報 ＞農薬及び肥料 ＞ 岩手県農薬管理使用アドバイザーについて と進んでください。

（問い合わせ先）岩手県庁　農林水産部　農業普及技術課
〒020-8570　盛岡市内丸 10-1　電話：019-629-5656

秋の味覚を楽しもう！

スタンプを集めて、産地自慢の賞品をゲットしよう！！

久慈地域 産直スタンプラリー

開催期間

2026年9月12日（土）➡11月15日（日）

1 1レシート700円（税込）以上のお買い上げでスタンプゲット！

2 4か所以上のスタンプを集めて応募しよう♪

► 抽選で19名様に、**2,000円分の商品引換券**が当たる！

► 全産直制覇した方抽選1名様に、
5,000円相当の商品が当たる！

【応募方法等】
〇下記のスタンプ台紙に、参加産直のスタンプを4つ以上集めてください。スタンプは1産直につき1つです。
〇スタンプが集まりましたら裏面に必要事項を記入し、参加産直に設置してある応募箱に投函してください。
〇お一人様何回でもご応募いただけます。
〇当選発表は商品の発送をもってかえさせていただきます。

☆参加産直の場所・詳細については裏面をご覧ください☆

産直 花野果	産直 まちなか	道の駅 いわて 北三陸	山形 ふるさと 物産センター	たねいち 産直	産直 おおの	道の駅 のだ ぱあぷる

主催：久慈地域産直連絡協議会
問い合わせ先：（事務局）産直おおの ☎0194-77-4379



① JA新いわてふれあい
産直ショップ　花野果
☎0194-52-0790
地元で生産された新鮮な野菜・花・果物、久慈沖で獲れた新鮮な海産物を販売しています。手作りの団子など加工品も充実しています。
住所　久慈市中央1-56
定休日　12/31～1/4
営業時間　9:00～18:00



② 道の駅くじ
産直まちなか
☎0194-53-1300
ほうれんそうをはじめとした新鮮な野菜や海産物、特産品など、たくさん取り揃えて販売しています。
住所　久慈市中町2-5-1
定休日　1/1
営業時間
9:00～19:00（4～9月）
9:00～18:00（10～3月）



③ 道の駅いわて北三陸
☎0194-66-8600
久慈広域で収穫された新鮮な農産物や海産物等を販売しています。県内のお土産品も充実しています。
住所　久慈市夏井町鳥谷7-3-2
定休日　1/1
営業時間　9:00～19:00



④道の駅白樺の里やまがた
山形ふるさと物産センター
☎0194-72-3131
久慈「まめぶ汁」発祥の地。季節の山菜やきのこのほか、毎月29日には山形村短角牛を販売しています。
住所　久慈市山形町川井8-12-1
定休日　年中無休
営業時間　9:00～18:00



⑤ たねいち産直
ふれあい広場
☎0194-65-3910
洋野町で採れた安くて新鮮な農産物をはじめ、海藻類等の海産物、豆腐、うに飯、ほや飯等の惣菜、加工品も販売しています。
住所　洋野町種市32-95-1
定休日　12/31～1/4
営業時間　9:00～18:00



⑥ 産直おおの
☎0194-77-4379
特産のほうれんそう、菌床しいたけ、山菜、松茸のほか、きんつば、みみっこもち、がんづきなどの加工品も充実しています。
住所　洋野町大野58-12-30
定休日　年末年始
営業時間　9:00～18:00



⑦ 道の駅のだ　ぱあぷる
☎0194-78-4171
1周年を迎えた「道の駅のだ　ぱあぷる」です。野田村の新鮮な野菜や魚介類、手作り豆腐の田楽や煮しめなどの惣菜、野田村の「おいしい」が勢ぞろいです。
住所　野田村大字野田25-3-1
定休日　年末年始
営業時間　9:00～18:00



参加産直はこちら！
二次元コードで地図を読み取ってね♪



久慈地方名産寒じめほうれんそう
イメージキャラクター「寒次郎」

きりとりせん

氏名　　（年齢　　歳）

住所　〒　　-

電話番号　　-　　-

産直への意見要望

※いただいた個人情報は、賞品の抽選及び発送のみに使用します。

いわてアグリベンチャーネット
Iwate Agri Venture net

メールサービス会員募集中！

（情報料無料）

「いわてアグリベンチャーネット」などの情報をお知らせするメールサービスです。

配信する情報

- 農業技術情報
- 病害虫の情報
- 研修会などの開催案内
- 気象警報・注意報
- 各地域の情報

県内９地域※ごとに配信します。お好きな地域を選んで登録いただけます。

（※盛岡、八幡平、中部(花北・遠野・西和賀)、奥州、一関、大船渡、宮古、久慈、二戸）

登録方法

右の二次元コードから、次の事項を入力してください。

- 氏名
- メールアドレス
- 所属
- 属性（農業者、市町村など）
- 登録する地域

最初の画面にて、「利用者登録せずに申し込む方はこちら」を選択してください。

盛岡	八幡平	中部
奥州	一関	大船渡
宮古	久慈	二戸

例）奥州地域に登録した場合
「全県向けの情報」と「奥州地域向けの情報」が届きます。

例）奥州地域と二戸地域に登録した場合
「全県向けの情報」と「奥州地域向けの情報」と「二戸地域向けの情報」が届きます。

詳しくはこちら

「いわてアグリベンチャーネット」のXはこちら

（問い合わせ先）
岩手県農林水産部
農業普及技術課農業革新支援担当
電話：019-629-5652
メール：AF0005@pref.iwate.jp



久慈農業改良普及センターFacebook 公開中！

久慈寒次郎が、最新の情報や、HOT な情報をお届けします。
下記の URL、または右の二次元コードからご覧ください。

https://www.facebook.com/岩手県久慈農業改良普及センター-581601925540151/